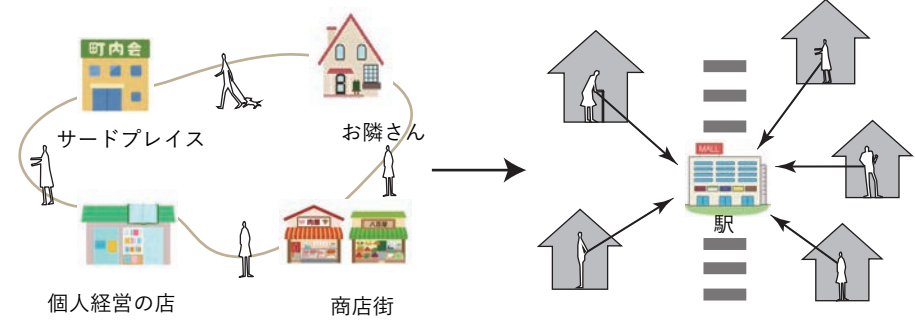


みずべぐらしプロジェクト@大磯

ー地域に入り込んだボトムアップ的な場づくりの実践ー

1. 課題意識

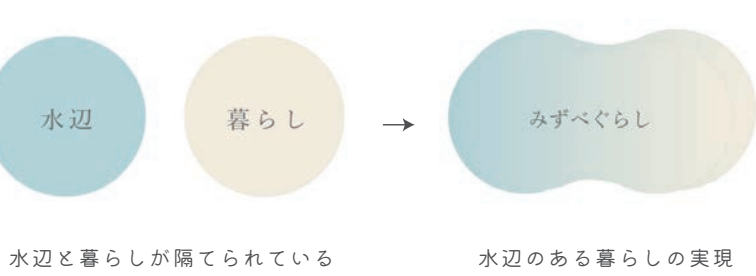
■ネイバーフッドの希薄化



超少子高齢化社会において、従来の行政に依存した都市計画や駅中心の暮らしは再考が求められている。これまでも、近代都市計画の問題点を指摘し続けているが、現在も**ネイバーフッドは希薄化し、地域コミュニティの崩壊や孤立化**が起きている。

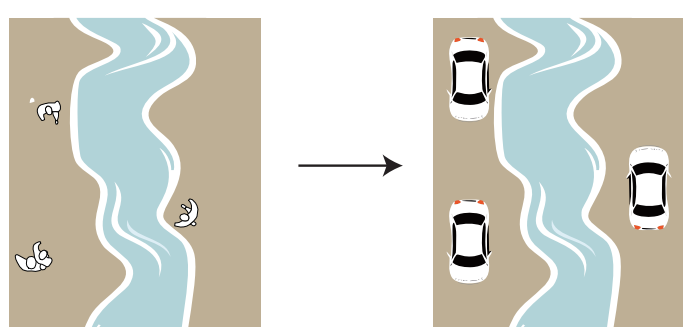
2. ビジョン

■暮らしにもっと水辺を。



暮らしの中に水辺あるライフスタイル『みずべぐらし』を掲げ、自然と繋がる喜び・人と繋がる喜び・地域と繋がる喜びのある豊かな暮らしを体現します。

■水辺と人々の距離



かつて、人々の暮らしは水辺を中心に営まれてきたが、現代では水辺は距離が置かれ、多くの地域で**水辺は生活やコミュニティの一部としての役割を失い**、その魅力や可能性が十分に活用されていない。

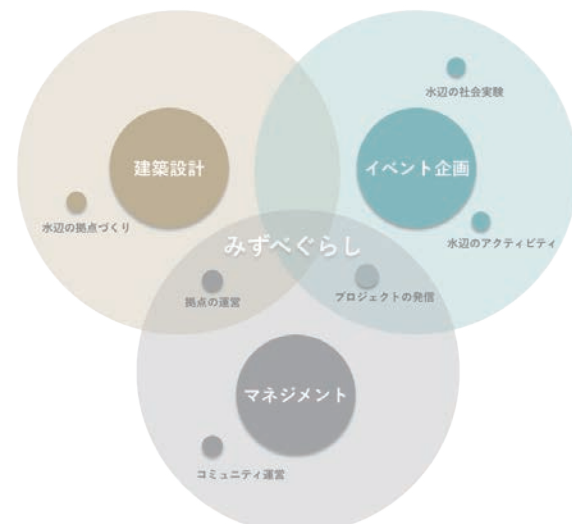
3. ステークホルダー



この他にも多くの方と関わり合いながら活動を行っている。イベント参加者とは、コラボレーションをするなど、その後も接点を持ち続けることを意識している。また、積極的に地域の方々と交流できる場に足し、新たな関係づくりを図っている。**偶発性**と**ご縁**を大切に活動をしている。

4. アプローチ

■ソフトとハードからアプローチ



5. 敷地情報

■大磯町



古民家

長らく空き家となっていた築55年の古民家。リノベーションをして、水辺の拠点にしている。



cafe & bar ROCA

2024年3月に空き家をリノベーションしてきたCafe & Bar。地域の居場所になっている。



不動川河口

下流側はバイパスの先に広がる相模湾の風景が美しく、上流側は木々に囲われた自然豊かな景色が広がる。

大磯町は、東海道の8番目の宿場町として栄え、穏やかな雰囲気と自然豊かな環境から別荘地として選ばれてきた。また、日本で最初の海水浴場の歴史があり、サーフィン文化が根付いている。人口3万人の小さな町ではあるが、近年は移住者が多い。

6. これまでの活動の流れ

- 2023
 - 11.29 大磯町フィールドワーク
 - 12.6 不動川でSUP
 - 12.13 田原さんとのMTG
- 2024
 - 1.28 不動川リパークリ
 - 2.21 定例MTG#1
 - 3.11 田原さんとのMTG
 - 3.17 SUP体験会トライアル
 - 4.21 SUP体験会#1
 - 4.28 SUP体験会#2
 - 5.1 定例MTG#2
 - 5.19 大磯市出展#1
 - 5.26 SUP体験会#3
 - 6.6 ビジョンの言語化
 - 6.9 空き家内見1
 - 6.11 定例MTG#3
 - 6.16 大磯市出展#2
 - 6.19 定例MTG#4
 - 6.26 定例MTG#5
 - 6.30 SUP体験会#4
 - 7.7 水辺で乾杯
 - 7.14 空き家内見2
 - 7.21 SUP体験会#5
 - 7.21 大磯市出展#3
 - 7.28 SUP体験会#6
 - 7.28 古民家契約
 - 8.3 古民家清掃#1
 - 8.7 定例MTG#6
 - 8.9 古民家清掃#2
 - 8.11 SUP体験会#7
 - 8.15 定例MTG#7
 - 8.18 大磯市出展#4
 - 8.25 SUP体験会#8
 - 8.29 定例MTG#8
 - 9.7 Weekends SUP#1
 - 9.8 不動川リパークリ
 - 9.8 SUP体験会#9 ★
 - 9.15 大磯市出展#5
 - 9.15 Weekends SUP#2
 - 9.16 SUP体験会#10
 - 10~ 水辺の拠点づくり
- 2025
 - 2~ ZINE制作・出版

2023.10-



大磯町を対象地とする設計演習の履修

大磯町を対象地とする設計演習リサーチやフィールドワークをしていく中で、大磯町の魅力に引き込まれた。

2023.11.29



設計課題をきっかけに地域と人に出会う

大磯町フィールドワーク『サーフボードレンタル2000円』の看板を掲げた整体院が気になり訪ねたことをきっかけに、田原さんと出会った。SUPのコミュニティをつくりたいという共通の思いから意気投合して活動が始まった。

2023.12.6



不動川でSUP

活動拠点の候補として挙がった不動川河口でSUPをした。自然豊かな環境に惹かれ、この場所を拠点として活動することに決めた。

とりあえずアクションをしてみる

2024.4.21



SUP 体験会 #1

不動川河口で、SUP体験会を初めて開催した。参加者は、大磯町や隣の二宮町に住む30~60代の方が多くなっている。SUP体験会では、参加費の代わりにプロジェクトへの応援金をいただいている。

イベント企画が偶然の出会いにつながる

2024.7.7



水辺で乾杯

水辺の魅力や可能性に触れるきっかけづくりとして、水辺に集まって乾杯するイベントを、不動川ほとりのCafe & Bar「ROCA」と共同で開催した。

正式にプロジェクト化

2024.6.06



ビジョンの言語化

『みずべぐらしプロジェクト@大磯』としての活動をスタート。これまではアクション先行で活動をしてきたが、ここでビジョンとアプローチを言語化して、方向性を明確にした。

徐々に地域とのつながりができる

2024.5.19



大磯市出展 #1

活動を地域の方々に知ってもらうために、毎月開催される大磯市でのPRブースの出展を始めた。これまでに5回出展し、今ではSUP体験会に参加してくれた方々との交流の場にもなっている。

暮らし作りの建築設計に手を出す

2024.7.28



古民家契約

水辺で乾杯に参加していた亀田さんが不動川ほとりの空き家を教えてくれて、大家さんと繋げてくれた。荒れた状態のままでしか買すことができない状況と、リノベーションをして拠点を作りたい私たちの要望が一致して、大家さんと直接契約を結ぶことができた。

ビジョンに沿ったアクションを積み重ねていく

2024.9.08



SUP 体験会 #9

[アップデート]

みずべぐらしをより体験してもらうために、SUP体験会をアップデートした。「古民家集まり、河口へ移動してSUPをし、また古民家まで帰ってくる」を通して一つの体験とした。

2024.9.07



Weekends SUP#1

より継続的・日常的に水辺で過ごす体験をしてもらうために、リピーターの方に向けたSUP企画を始めた。毎週末の方々に開催している。

2024.9.08



不動川リパークリ

台風の影響で大量のゴミが漂着した不動川河口の日常を取り戻すためにゴミ拾いを行った。緊急での開催に関わらず、10名の方が参加してくれた。

プロジェクトへのファンがではじめる

2024.10-

水辺の拠点づくり [空き家再生]

古民家を自分たちの手で改修して、小さな水辺の拠点をつくる。水辺で過ごす前後に、くつろいだり、誰かと話したりできる、地域に開かれた居場所にした。

改修はプロジェクトに関わりがある地域の方々と共同で進めていく。イベントでの対話を通して、潜在的に求められている機能を探り、DIYワークショップを開催して、つくるプロセスを共有する。地域に愛される本質的なコミュニティハブをつくりたい。

2025.2-

ZINEの制作・出版

活動開始から約一年が経ったタイミングで、これまでの活動のまとめと『みずべぐらし』についての雑誌を制作・出版し、地域内で循環させていく。

代表者：高橋 翼

mail : mizubegurashi.oiso@gmail.com

tel : 080-6667-1300



@MIZUBEGURASHI_OISO